

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 8

1953. 4月 (5月6日)

爛漫たる花は人々に懐をわけさせ、なごやかな春光は人々を野外に誘つて、この4月は3万5千人という昨秋以来最高の入場者を見た。中でも

12日 ..... 3104人

は記録的であつた。

さて4月の記事の最重要事は才又回委員会が開催された事である。かゝつてよりの予定通り11日に実験所特研の応接室で開催された。出席者は

宮地 委員	南 委員
岩城 監事	峰尾 委員
高田 委員	内海 委員
山路 委員	時岡 委員

で他に本田監事の代理として会計課の茅田事務官が出席された。委員会に先立ち、9時より1952年度の監査が実験所事務室に於て宮地会長立会の下に岩城監事、茅田事務官によって行われ、10時半に終了した。続いて直ちに特研に移り委員会が開かれた。

まず宮地会長を議長に決定し、茅田事務官を本田監事の代理として承認した後、監事の委員会への出席及び意見開陳を認め、番所山植物園の榎本氏は、必要に際してのみ出席して戴く事に決定、月報16, 7附1の議題案に従つて議事に入った。12時半議題を以て午前中の会議を終え、寄宿舎食堂で昼食、食后番所山植物園との境界現場を实地調査した後、13時半再開、18時に終了した。南、峰尾兩委員、岩城監事には所要のための帰宅されたが他の役員は寄宿舎に於て夕食を兼ねて催された実験所及び水族館全員の懇親会に参加して種々な意見を聞かされた。

## 委員會 記 録

1. 監査結果 …… 經理帳簿の書式に非常に不便なところがあるのでこれを改めること、特に積立金の經理は別に記すよう求められたが、監査は無事終了と承認された。
2. 月報発行 …… 従来通り月報は発行する。但し今後は1年を通(の頁番)をいれ、最後に年報をつけて、1年分を製本し保存(得る)ようにすること。1952年度分は年報を配布して完成とすること。
3. 番所山植物園との関係 …… 5月16日以後水族館との連帯関係はなくなる。連絡道路及び博物館前広場の使用に關しては押入頁の如く決定され、この覚書に署名捺印されたものが契約書として保存されている。
4. 博物館 …… 5月16日以後階下東側の一室(24坪)を適當な番人を入れて公開放すること。内容は追々充實のこと。費用は入場税免稅額年間約15万円とする。
5. 5月16日以降の番所山植物園との契約金に相当する事業 …… 諸種の準備金、予備費がなくても困るから、取替えずそのまゝ貯金しておいて、次回委員會に於て事業計畫を決定する。
6. 1953年交実験所改善費 …… (印刷費) 40万円、(備品費、特別費、人件費) 30万円、計70万円を予定しておき、収入が予定額を越えた時には更に増額を考慮する。
7. 1953年交水族館設備改善費 …… 20万円を計上しておき、まず便所を建造し、残額あれば逐次諸計畫を實現する。
8. 水族館使用人の待遇 …… 休日を月に4回とする。但し實際に休むのは3日とし、残りの休暇1日を返上する事に対しては相當額の代償を給与する。政府共済組合に加入出来るまでの期間は、同組合加入によつて、得られるべき厚生面の恩恵に匹敵

## 京大臨海実験所附属水族館構内における 観光客の通行についての覚書

表記の件に関して昭和28年4月11日開催された京大瀬戸臨海実験所振興会委員会に於て議決された事項を記録しこの事項を承認し遵守する証として各関係者が署名捺印し記録を、部宛各関係者が所持することとする。

### 議決事項

1. 水族館陳列室出口より番所山熱帯植物園に通ずる道路を水族館側に於て遮断しはす。
2. 水族館正面近くにある出口に番所山熱帯植物園假入口の標示をしてもよい。
3. 上記出口より番所山に通ずる道路が習慣道路とならぬために、水族館玄関より南海岸沿いに番所山に通ずる道路を建造しこれを番所山本道として標示する。(道路完成期日は昭和28年8月15日とする)
4. 水族館陳列室出口に水族館側に於て人選(傭入れた監視人)1名を置く。この監視人の給料賞与その他の給与は水族館の一般使用人のそれに準ずる。この人件費はすべて番所山熱帯植物園が負担し、水族館の給料支払日までに確実に水族館に交付する。(昭和28年5月16日傭入)
5. 博物館前の広場は観光者に開放する。
6. 番所山熱帯植物園は前記広場及びこれに隣接する区域を現状以上に美しく維持する。

- ス 番所山本道及びこれに続く道路の一部が水族館構内にあることに対して、番所山熱帯植物園は水族館宛土地使用願を提出の上適正な代価を水族館に支払わねばならない。この項に関する細目は現地に於て協議のこと。
- ホ 以上の3、4、6、7の事項が完全に守られない場合には、1、2、5の事項及び6、7の土地使用の件は直ちに取消される。
- コ 番所山熱帯植物園の内容が余りに営利的、非文化的であると認められた場合にも前記1、2、5の事項及び6、7の土地使用の件は取消される。

- (附) 1. 水族館構内に売店・切符発売所等を設けることは出来ぬ。
2. 標識等はあらかじめその意匠と設置の場所につき水族館側の了解を得た上、適正なる代価を支払って設けることが出来る。細目は現地に於て協議のこと。

以上

昭和28年4月11日

和歌山縣白浜町

京大臨海実験所内

京大臨海実験所振興会

会長 宮地 俊三郎

する何等かの操作を給与面に於て実施する。

9. 風雨時におけるバス乗入れの問題 ……………バス乗入れに際して起り得べき諸問題を予の解決の上、町当局或は町観光協会より上記の件につき申込れある時は、これに対して協力も惜しまぬ用意あり。

10. 1953年度予算 ……………未だ満14年の実績とないから取敢えず予算案に準じて運営し、次回委員会に於て予算を正式に決定する。

11. 次期(1953年9月1日—1954年8月31日)当番 ……………時岡委員が重任する。但し以後は続けない。また休日は実験所常駐委員が交代当番をとる。

12. 次期委員会 ……………1953年秋季(10月頃)の適當な日を送るで開備する。

以上

各委員、監事におかれては御繁忙中にも拘らず、また長途の市旅行の後にも拘らず、市出席を賜わり、終始熱心に議して下さいました。心より厚く市礼を申し上げます。

◎ 委員会の決定に基づいて、今回より、経理内容の形式を幾分変更した。また水族館設備改善費として便所の建造を始めた。13坪×12.9尺約5坪半、男子用約5人分、婦人用3室に手洗所がついている。28日上棟し、観光地白浜の模範便所とすべく目下装を急いでいる。

◎ 博物館公開の準備を具体的に始めたが何しろ置場所に困る。実験所標本が格納されており、山のその河のものが混在し、かつ長期間公開のための考慮が払はれていなかったため、一寸手ががつかぬと言ふのが正直な印象である。そこで“取敢えず”

何とか人に見せられる程度に陳列を掃除し、整理して公開した後、逐次部分的にある構想の下に系統的陳列に改め、いく事の方針を変えた。4月30日博物館番人として時岡美津子(時岡幸真の妹、昭和27年山口大学学藝学部短期卒、昭和28年3月迄中学教諭)が来所、5月1日から開館の準備に従事している。

- ◎ 水族館使用人の待遇改善の1項として休日が1月増されたが、実際にはこの休日を返上する代償として、この1月分の休日勤務手当に限り300円を支給する事とした。また共済組合加入によって得られるべき厚生面の恩恵に匹敵する給与面の操作として、全組合に参加が認められる迄、退職金は1年の勤務期間に対し14月給与額の90~100%とし、かつ退職金は振興会に於て積立てる事なく、毎月人件費として支出して各人の銀行通帳に入れ、これを一括して在取期間中は振興会に於て保管する事とした。こうする事により、確實に所定の退職金が貰えると言う安全感が加えられる事となる。
- \* .....その $\frac{3}{4}$ が振興会、その $\frac{1}{4}$ は各人の支出である。

水もぬるみ雑賀崎や岩屋の漁師が大挙してやって来た。鯛漁が始まり、その餌のエビ曳きにも種々な水族がひっかかって来る。また四双島沖にツボ網が設けられ、その網が実験所南浜に上げられるのも、水族館にとって都合のよい魚の源となつてくれる。このような事情で、水族館の内容は非常に充実している。タイマイの保温水槽も20日頃から電気を切っていたが、月末には保温装置を取外してしまつた。

3月14時清宮さまが小雨の中を来所され、水族館一

一番折込を約1時間半に亘つて見学された。

◎ 4月の入場者数

水族館発売切符数

大人 10847  
 小人 1260 } 計 20019  
 団体 7912

明光バス発売切符数

大人 15615 } 計 15920  
 小人 305

合計 35939

無料入場者(白浜湯崎小学生、幼稚園児) ..... 284

◎ 4月の収入

観覧券売上金 676,057.00  
 雑収入 1,053.00  
 3月より繰越 30,939.00

計 708,049.00

◎ 4月の支出

◇ 一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	44,875.00		
光熱費	8,303.00		
消耗品費	3,723.00		
備品費			
修理費	5,400.00		
材料費	15,833.00		
厚生費	230.00		
旅費			
諸税公課費	18,547.00		3月分入場税

雜費	118,00		
通信運搬費	710,00		
契約金	112,467,00		
合計	209,398,00		

◇水族館設備改善費

項目	金額	累計	備考
電話室設備	25,65,00		
便所建築	164,700,00		
花壇設置	6,460,00		周辺美化
合計	174,725,00		

◇実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,446,00		研究補助 月給差額
印刷費			
備品費	78,100,00		文献複写装置
特別費			
合計	81,546,00		

◇博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費			
備品費	5,650,00		標本 文房具
修理費	1,800,00		戸棚の錠
消耗品費	978,00		文房具
旅費	120,00		
合計	8,548,00		



〇 積立金

費目別	金額	積立金引出	現在高	備考
バス・アツツ資金	6,000.-		30,000.-	
年末賞与資金	6,000.-		30,000.-	
厚生資金	1,000.-	3,000.-	150.-	春期懇親会費
災害時予備金	14,485.-		50,291.-	西大自治会正清 命義善会金521 振興会正買会 所寄費29,419
会議費積立金	20,000.-	30,000.-	20,000.-	
水族館 借用料積立金			25,000.-	
合計	47,485.-	33,000.-	155,441.-	

支出合計

一般経費 ..... 209,398.-  
 水族館設備改善費 ..... 174,725.-  
 実験所改善費 ..... 81,546.-  
 博物館費 ..... 8,548.-  
 積立金 ..... 47,485.-

計 521,702.-

所山に對招契約金は 5月に繰越し 186,347.-  
 57,605,000.- - 1,250,000.-) ×  $\frac{1}{6}$  とて算出された。

4月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(18)	4	6	8
気温	$\frac{11.2-16.1}{13.4}$	$\frac{16.2-17.9}{13.9}$	$\frac{14.9-21.0}{17.9}$
水温	$\frac{13.5-16.1}{14.7}$	$\frac{15.3-17.3}{16.2}$	$\frac{16.8-20.0}{18.1}$

但し 気温は南水槽室 で10時に測定  
 水温は No.22水槽

② 4月の魚

水温が上昇してきて一般の魚は活潑に攝餌を始める元気が出て来た。死ぬ数も非常に少い。たゞ26日夜半ポンプのフットバルブに海

藻がつかって新水以外にはやゝ多量の死魚を是たのみである。  
魚の補充に取替容易である。今から魚病の流行する夏期となるまでが一番やりやすい季節なのであろう。

水温の上昇に伴い、冷水性のタカアシガニは次々に腰を抜かしてゆき、5月5日現在、たゞの一匹が残っているのみである。

人気者のエビズグイが生エビ→死エビ→死小型魚→魚肉と急に餌についてくれて一同を安堵させた。

ツボ網の獲物としては、シロサメ、ホシサメ、アカエイ、ガンギエイの他にカスサメ、サカタサメ、ナヌカサメ、ツバクロエイ、トビエイ等が澤山に收容されたが、いずれもあまり長生きはしない。

エビ獲りのドレッチではタイワンガサミ(23日)のほか数頭のウチアエビが得られた。

ミノカサゴも数度に亘って持込まれたが、いずれも数日を保たずして死んでしまった。

以上の他に下記の記録がある。

- 1) タツノオトシゴ ..... 6日購入 ..... 16日死亡
- 2) セブノウミヘビ ..... 3月22日購入 ..... 3月26日死亡(3月分追加)
- 3) アンコウ ..... 22日購入 ..... 23日死亡
- 4) クロコバンサメ ..... 8日購入 ..... 13日死亡
- 5) マダコ ..... 11日購入。No. 4水槽でよく生きています。他に小さなイダコも同水槽に入っています。
- 6) マツカサウオ ..... 4月中に逐次購入し、5月5日現在11匹がNo. 32水槽に入っている。
- 7) ウミホウスギ ..... 26日購入 約500余りついている。
- 8) フリソデウオ ..... 20日辻氏採集。水槽に入れて23時間後死亡。

---

時隆

追記……………1952年度年報は、目下繁忙のため、少し遅れてお届け致します。全年度月報を綴りあげるのにはしばらくお待ち願います。